

国産市販食品から *Clostridioides difficile* を検出

研究成果のポイント

- 医療上重要であり抗菌薬関連下痢症の原因となる *Clostridioides difficile* が国産市販食品の約3%に分布していることを発見
- 国産市販食品の *C. difficile* による汚染率は海外の食品と比較し低率
- 今後、監視の強化や対策の重要性を示唆

研究成果の概要

酪農学園大学臼井准教授の研究グループは、医療上重要であり抗菌薬関連下痢症の原因とされる *Clostridioides difficile* という細菌が、国産の市販食品に約3%分布していることを明らかにし国際誌 *Anaerobe* に掲載されました。*C. difficile* による感染症は日本では問題とされてこなかったのですが、海外では重篤化し命を落とすことも多いため、アメリカ疾病管理予防センター（CDC）は、緊急に対応が必要な細菌感染症として指定しており、日本でも注目が集まりつつあります。

同グループは、国内の14つのスーパーマーケットから国産野菜を242サンプル、国産肉468サンプルを購入し *C. difficile* を分離しました。結果、8サンプルの野菜(3.3%)、6サンプルの鶏肉(6.7%)、1サンプルの鶏の肝臓(3.6%)、1サンプルの豚肉(0.5%)、2サンプルの牛肉(1.6%)から *C. difficile* が分離されました。分離された細菌の中には、ヒトの臨床現場で比較的良好に分離されるものと類似したものも認められ、ヒトでの細菌感染症との関連が示されました。

同グループはこれまでに、牛、豚および犬での *C. difficile* の分布状況について明らかにしてきました。今回、食品における *C. difficile* の分布が解明されたことから、動物からヒトへの食品を介した伝播の可能性が示されました。今後、*C. difficile* に対する監視体制の強化や調理過程における食品の取り扱いに関して注意をすべきことを示す成果となりました。

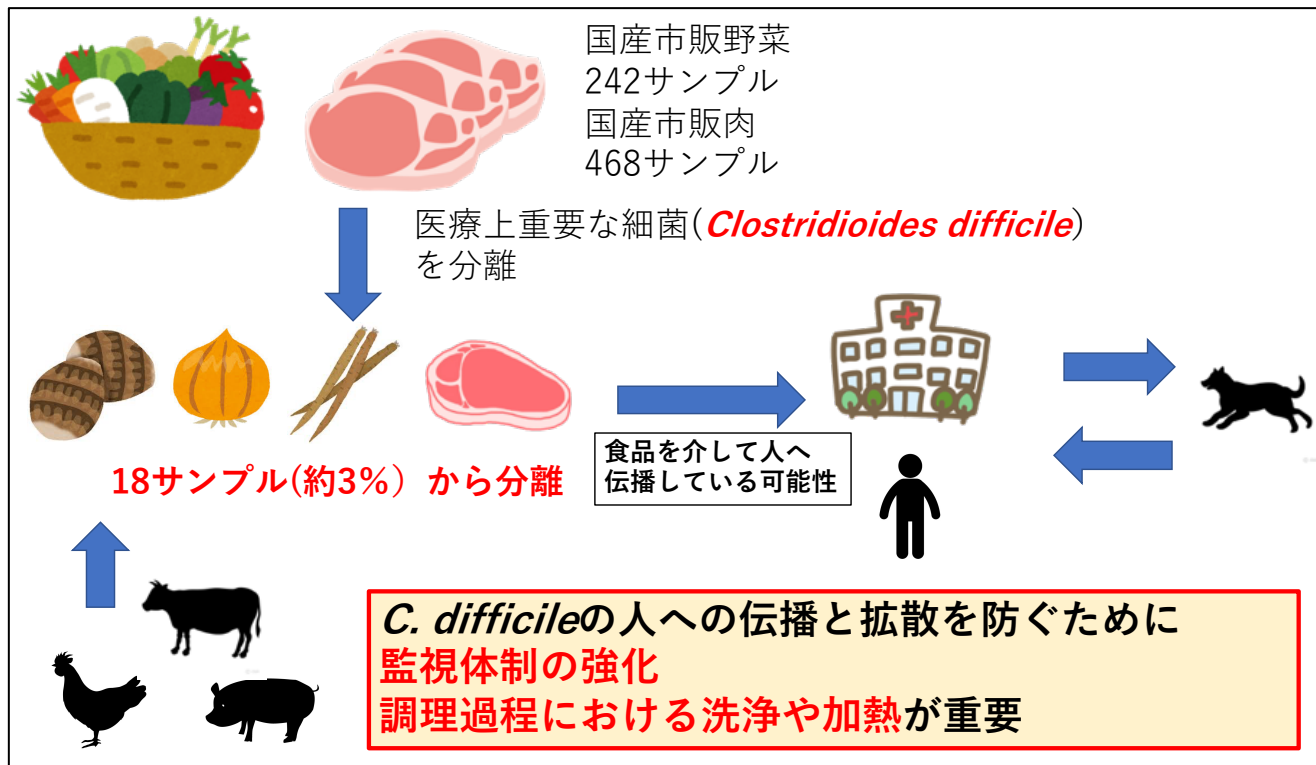
論文発表の概要

Usui M, Maruko A, Harada M, Kawabata F, Sudo T, Noto S, Sato T, Shinagawa M, Takahashi S, Tamura Y. Prevalence and characterization of *Clostridioides difficile* isolates from retail food products (vegetables and meats) in Japan. *Anaerobe*. 2020. Feb;61:102132.

<https://doi.org/10.1016/j.anaerobe.2019.102132>



Press Release



概要図

【問合せ先】

〒069-8501 江別市文京台緑町 582 番地

酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 准教授 臼井 優

電話 : 011-388-4723 F A X : 011-388-4723

E-mail: usuima@rakuno.ac.jp



RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

酪農学園大学

